

AAR News



令和3年8月豪雨で被災した佐賀県武雄市のNPO
法人菜葉に非接触型体温計や泥を除去するた
めの高圧洗浄機などを届けました(2021年8月18日)

特集

災害支援の現場

被災された方々に寄り添う

過去10年間のAARが被災者支援を実施した国内災害

2011年3月	東日本大震災
2015年9月	関東・東北水害
2016年4月	熊本地震
2016年8月	台風10号・東北水害
2017年7月	九州北部豪雨
2018年7月	西日本豪雨
2018年9月	北海道胆振東部地震
2019年8月	九州北部大雨
2019年9月	台風15号・19号
2020年7月	九州豪雨(令和2年7月豪雨)

は、佐賀市に本部を置く一般社団法人九州ケータリング協会(中島一代表理事)に協力を依頼し、キッチンカーによる夕食の炊き出しが実現しました。

今回の炊き出しは、コロナ対策として通常のように住民の皆さんが一カ所に集まることはせず、作り立ての弁当を宅配しました。8月20日に、焼きサバ弁当を受け取った79歳と78歳のご夫婦は「自宅が床上浸水して、消防団のボートで2階から救助されました。家の中を片付けましたが、1階は湿ったままなので2階で暮らしています。台所が使えなくなり、近所の商店も開いていないので、差し入れなどで何とか食いつないでいます」と説明し、温かい弁当に「ありがたかねえ」とホッとした表情を見せてくれました。

障がい者・高齢者を中心とした支援

地震や津波、洪水などの自然現象が、仮に砂漠の真ん中で起きたとしても「災害」にはなりません。人々が暮らす社会で起きること災害となり、その被害の大きさは社会の脆弱性(どれくらい被害を受けやすい状況か)によって左右されます。

日本の災害対策は、被害をゼロに近づける「防災」として、建物・インフラの耐震構造の強化などが重視されてきましたが、阪神・淡路大震災(1995年)以降、社会の脆弱性に目を向けて、被害を最小化していく「減災」も注目されるようになりました。AARは支援物資の配付、孤立解消やネットワーク構築を目指す交流支援などの「減災」、安全な土地への移転や建物の構造強化といった「防災」の両面で災害支援を行っています。また、災害発生時、特に被害を受けやすい障がい者や高齢者を中心に支援活動に取り組み、当会ならではの専門性を高めてきました。



東日本大震災の避難所に支援物資を届けるAAR職員(2011年4月)

災害時の被災者支援は本来、「災害対策基本法」で行政の責務とされていますが、東日本大震災(2011年)で行政だけでは対応できない広域かつ甚大な被害を経験したことから、AARのような非営利団体(NPO)、企業・経済団体など民間による支援が不可欠であると認識されるようになりました。現在は、①行政、②災害ボランティアセンター(主に社会福祉協議会が設置・運営)、③NPOなどの3者が連携して災害対策を進めています。被災地では常に3者が集まって情報共有会議を開き、支援から取り残される被災者がいないように調整します。また、AARは日本障害者協議会(JD)などと協力して障がい福祉施設の被災状況を把握し、より効果的な支援を実施しています。



東日本大震災の被災地で今も続く地域交流イベント(2021年8月5日)

※AARは被災地でのコロナ感染拡大防止策を徹底しています。「新型コロナウイルスの影響下における国内緊急支援ガイドライン」を策定し、県外の職員が現地入りする際はPCR検査で陰性結果を確認したうえで、マスク着用や手指消毒をして施設を訪問しています。

被災地の皆さんと弁当を準備するAARの大原真一郎



特集 災害支援の現場

「数十年に一度」と言われる大規模災害が毎年のように繰り返される日本列島。AARは発生直後の緊急支援から、中長期にわたる復旧・復興支援まで、被災地の方々に寄り添う支援活動を展開しています。災害支援の現場から報告します。

大雨被害の佐賀で 緊急支援を実施

「前回の被災から2年、また被害に遭うなんて...」。今年8月11日から西日本を中心に続いた記録的大雨(令和3年8月豪雨)は、佐賀県など九州北部を中心に洪水や土砂崩れなどの甚大な被害をもたらしました。AARは同県内の障がい福祉施設や在宅避難者への緊急支援を実施しました。

佐賀県の一部地域では、わずか1週間で年間降水量の半分以上を超える大雨を記録し、県内の床上・床下浸水が約3400戸に上るな

ど、2019年8月の佐賀豪雨を上回る被害が出ています。

六角川の支流が氾濫した武雄市北方町のNPO法人菜葉では、身体・知的・精神障がいがある21人が働く共同作業所や事務所が水位160センチまで水没しました。2年前に被災した時もAARが復旧支援を行っており、8月18日に東京事務局の生田目充が非接触型体温計や泥を除去するための高圧洗浄機などを届けると、職員の津山葉子さん(表紙写真左)は「前回の経験を踏まえて、大雨警報が出た時点でパソコンや車両を安全な場所に移しましたが、大型保冷庫や乾燥機、家具類などが使えなくなっていました」と話されました。菜葉は農業や食品加工に取り組んでいます。主力商品の黒ニンニクが廃棄処分になったほか、大豆やカボチャの畑が冠水で全滅したといっています。

2年前の被害からようやく復旧し、昨年以降は新型コロナウイルス対策を徹底しながら、地域の障がい者が働く場所を確保していました。そんな中で起きた大雨被害に、津山さんは「数十年に一度と言われた水害からたった2年で同じ目に遭って、私たち職員も利用者さんたちも精神的なショックを受けています。簡単に移転するわ

弁当を宅配するための活動拠点を提供してくださいました。加藤勉AAR理事が代表を務めるNPO法人ピースプロジェクトと協働で9月15日までに、計1120食のお弁当をお届けしました。

けにもいかず、せっかく復旧しても、またすぐに災害が起きるんじゃないかと不安な気持ちでいっぱいです」と訴えます。

AARは9月15日までに、市内の4施設に衛生用品や掃除用品、扇風機などを届けたほか、本格的な復旧に必要な物品を提供する予定です。

炊き出しの弁当 「ありがたかねえ」

「こがんぬつか(温かい)弁当ばもうて、ありがたかねえ」。

武雄市北方町の農村地帯にある久津具地区は、全64戸のうち47戸が床上浸水しました。「在宅避難者のお年寄りは食事も満足にとれていない」との情報を得たAAR



被災者の方に弁当を届けるAARの生田目充

緊急支援

エチオピア難民の支援事業開始
スーダン東部居住地の衛生環境改善

給水タンク設置など準備

エチオピア北部ティグレ州で2020年11月に発生した政府軍と武装勢力の衝突によって、大量の避難民が発生し、そのうち6万人超が隣接するスーダン東部に流入しています。難民居住地（上写真）は衛生環境が整っておらず、新型コロナウイルスの感染拡大も懸念される中、AARは現地協力団体と連携して、給水タンクの設置など水衛生環境を改善する支援活動を進めています。

スーダン・カダーレフ州のトゥナイバ難民居住地では、現在約8800世帯・1万9500人が避難生活を送っています。居住地は水はけが

がつぶれたり、冠水で屋外のトイレが使えなくなったりと衛生状態は劣悪です。コロナ感染の懸念に加えて、最近ではE型肝炎の発生も報告されています。

AARは①衛生用品（マスク、石けん、ゴミ箱、蚊帳など）の配付、②衛生設備（給水タンク40基、手洗い場30カ所）設置、③衛生啓発活動を実施する予定で、難民からの聞き取り調査を行っています。

「家族で国境を超えました」

国境近くの町で夫と幼い娘二人と暮らしていたメブリットさん



「エチオピアに帰っても安全が確保されないならスーダンに残るしかない」と話す難民の女性（右）

（31歳・写真右）は「昨年11月の夜、空襲が突然始まり、家族で国境を越えました。とっさのことで両親を連れて来られず、町に残したままです」と話します。スーダン国境警備隊に保護され、簡易テントで2カ月ほど過ごした後、トゥナイバ難民居住地に移されました。「私は教師、夫は農業をしていましたが、ここでは家事をして過ごすだけです。エチオピアでは仕事もあって生活は快適でした。紛争が終わって平和になれば母国に戻りたいと思いますが、安全が確保されないのであれば、スーダンに残るしかありません」。

今回の武力衝突は、少数民族ティグレ人が多数派を占めるティグレ州政府と、最大民族オロモ人のアビー首相が率いる連邦政府の対立に端を発し、連邦政府軍と州政府軍の戦闘に「ティグレ人民解放戦線」（TPLF）が加わって混乱が続いています。

AARはスーダンで水衛生改善や感染症対策で支援事業を行ってきた実績があります。そうした知見とネットワークを生かして、エチオピア難民支援に取り組んでまいります。

開催報告

「混迷するミャンマー情勢とロヒンギャ難民問題の行方」
オンラインシンポに約300人

ミャンマー情勢とロヒンギャ難民問題について考えるオンラインシンポジウムを7月31日に開催し、国内外から約300人の方が参加しました。

ゲストの根本敬・上智大学教授（右下）と中西嘉宏・京都大学准教授（右上）、AAR東京事務局（前バン格拉デシュ・コックスバザール駐在員）の中坪央暁（左下）がミャンマー情勢、ロヒンギャ問題の現状、今後の見通し

についてそれぞれ講演しました。

中西准教授は、ミャンマー政変後の国内避難民の増加や経済停滞による貧困の深刻化などを解説され、「政府間だけではなく市民社会同士の連携が重要」と述べられました。根本教授はロヒンギャ問題をめぐる歴史的な背景を解説され、「ロヒンギャを名乗る人々と、彼らの国籍を認めない政府・国民との衝突がロヒンギャ問題の解決を拒む大きな要因である」と指摘。中坪は、「コロナの影響で難民キャンプでの支援活動が制限され、家庭内暴力や人身売買が増加。難民の帰還の見通しが立たず、ますます追い込まれている」と、バン格拉デシュ側の視点から報告。キャンプでは学校教育が行われていないことから、今後は教育や職業訓練が特に必要と訴えました。

「こうした状況に対して私たちができることは、この問題を忘れずに関心を持ち続けること、決して希望を捨てないこと」という中西准教授と根本教授の言葉でシンポジウムは締めくくられました。

国際理解教育

平和を学ぶオンライン授業
長崎県平戸市立中野中学校

AARは今夏、長崎県平戸市立中野中学校が取り組む「平和学習」の一環として、オンライン形式の授業を行い、平和の学びを深めるお手伝いをしました。原爆被爆地の長崎は平和学習が盛んな土地柄



です。地雷問題を今年の研究テーマに選んだ3年生10人は、自分たちで事前学習したうえで、7月8日に教室とAARをオンラインで結び、AAR東京事務局の紺野誠二による約1時間の授業を受けました。

紺野は自身が旧ユーゴスラビアで地雷除去活動に従事した経験を踏まえて、地雷が非人道な武器であり、世界から地雷被害をなくす必要があることを伝え、生徒からは「多くの子どもが被害に遭っていることを知って悲しくなった」「自分たちに何ができるか考え、少しずつでも取り組んでいきたい」などの感想が寄せられました。長崎原爆忌の8月9日に開かれた全校集会では、授業を受けた生徒たちが地雷について学んだこと、考えたことなど平和学習の成果を発表しました。

御礼

ケニア難民居住地
就学支援キャンペーン
学用品の配付を開始

会報夏号でご案内した「ケニア・カロバイエ難民居住地就学支援キャンペーン」に対し9月15日時点で、229万4,775円のご寄付が寄せられています。ご協力に心より御礼申し上げます。

制服などの調達および支援を必要とする生徒への面談を行った後、9月下旬より順次配付しています。配付のご報告は次号およびホームページに掲載するほか、ご寄付をお寄せくださった皆さまには報告書をお送りします。

多くの若者が就学・復学できずにいます。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

新しいホームページ お手続きなど便利に

AARのホームページを8月5日、リニューアルしました。「支援者の皆さまへ」というページを新しく設け、ご支援くださる皆さまに向けた情報をまとめて記載しています。ご住所などの情報変更が簡単にお手続きできるようになったほか、支援者の方から多く寄せられるご質問への回答も詳しく掲載しています。「難民について」の特設ページや、AARが取り組む世界的問題についての「解説コーナー」など、内容も充実させました。スマートフォンやタブレットからも見やすくなりましたので、ぜひご覧ください。



1/29 (土) チャリティコンサート 田中彩子氏プロデュース・主演 モノオペラ「ガラシャ」

オーストリアを拠点に、世界各地で活躍するソプラノ歌手の田中彩子氏（写真）をお招きするコンサートを開催します。田中氏がプロデュース・主演される「ガラシャ」は、戦国武将・明智光秀の娘、細川ガラシャをテーマに能をイメージした少人数制のオペラです。ぜひご鑑賞ください。

日時：2022年1月29日（土）午後
会場：国立能楽堂
（東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1）

詳細が決まり次第、ホームページで
お知らせします。



各種お問い合わせ・お申し込みは AAR まで

☎ 03-5423-4511
受付：平日10時～18時
✉ info@aarjapan.gr.jp

令和3年8月豪雨 被災者支援へのご協力

佐賀県を中心に発生した豪雨被害の被災者支援に、たくさんの個人、企業、団体の皆さまよりご寄付をお寄せいただきました。心より御礼申し上げます。個人情報に配慮し、企業・団体のみをご紹介します。

株式会社虎屋
ユースキン製菓株式会社

（9月10日時点、50音順）

ふるさと納税を通じて国際協力

佐賀県へのふるさと納税を通じて、AARをご支援いただけます。お寄せいただいた額の90%が佐賀県よりAARに交付され、海外の難民支援や国内での災害支援、国際理解教育などに活用させていただきます。寄付をしてくださった方には、佐賀県産の地酒やお米、調味料、はちみつなどからお選びいただいたお礼の品をお届けします。ふるさと納税を通じた支援もぜひご検討ください。



お礼の品の一例。佐賀の地酒とお米が人気です

世界に思いを届けるチョコレート 11月に販売開始します！

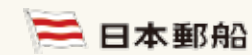
純益のすべてを難民支援や障がい者支援に活用するAARのチャリティチョコレート。昨年度は約2万4千個をお買い上げいただきました。今年も11月より販売を開始します。ご協力をお願いします。



ミルク、ホワイト、抹茶ホワイト、モカホワイトの4枚入り 600円（税込）
詳細は同封チラシをご覧ください。



新型コロナの影響で 困窮する方々にご寄付



日本郵船株式会社より、「新型コロナウイルス感染拡大の影響で困窮されている方々に役立てほしい」と、AARが日本国内で実施するコロナ対策支援にご寄付いただきました。同社には、2017年から社内販売会で社員の皆さまにAARのチャリティ商品をご購入いただいているほか、社員勉強会の講師としてAAR職員をお招きいただきました。

SWR 珠瑛会が法人サポーターに

一般社団法人 SWR 珠瑛会（東京都品川区）が、困難を抱えている世界の人々の力になればと、新たに法人サポーターにご加入くださいました。AARの迅速な支援活動を評価していただき、中長期的な視点でAARをお支えくださいます。

かき氷の売り上げでミャンマー支援

東京都新宿区のかき氷専門店「氷おばけ」より、かき氷の売り上げの一部と店頭募金をAARのミャンマー支援にご寄付いただきました。同店では、「ミャンマーの方々の力になりたい、お客さまにミャンマーについて関心を持ってもらいたい」と、ミャンマーをテーマにしたかき氷を開発。7月時点で839杯を販売されました。



同店の横川璃乃店長（写真右）に感謝状をお届けしました

遺贈寄付をお寄せいただきました

臼井 節子さま（東京都）
手塚 晴子さま（東京都）
湯田 富岳さま（大阪府）

（2021年3月1日～9月10日、50音順）

皆さまのご遺志を大切に、難民や子どもたち、障がいのある方々のために役立ててまいります。

2021年 夏募金 ご協力ありがとうございました

6月にお送りした夏募金のお願いに、のべ2,059名の皆さまより1,821万2,355円のご寄付をいただきました。温かいご支援に、心より御礼申し上げます。皆さまのご寄付を子どもたちの未来につなげるため、コロナ禍においても支援が途切れないよう活動を続けてまいります。



AARが設置した手洗い場を利用するパキスタンの子どもたち

チャリティコンサート 6月・9月とも盛会に

チャリティコンサート「ベートーベンの弦楽四重奏」を6月20日に開催しました。ヴァイオリン奏者の岩田恵子氏ら（写真左）が美しい音色を披露され、169名の方が鑑賞されました。9月5日には「弾いて祈る 天満敦子ヴァイオリンリサイタル」（写真右）を開催し、132名の方にご来場いただきました。お客さまからは、「ゆったりとしたひと時を満喫できた」「体に音の振動が伝わり、生演奏の良さに感動した」などのご感想をいただきました。

また、長年AARをご支援くださっている湯田和子さまより、押し花をあしらったしおりをご寄贈いただき、来場された皆さまにお渡ししました。コンサートの収入とお寄せいただいた募金は合わせて176万7,700円となりました。大切に活用させていただきます。

※当日は東京都が定める新型コロナウイルスの感染防止策を講じて開催しました。



岩田恵子氏（写真左）率いるカルテットの皆さん 天満敦子氏（中央）とピアノの勝呂真也氏

支援をあきらめない

ミャンマー・アフガニスタン情勢について

支援事業部長 久保田和美



AARが1999年から活動するミャンマーでは、2021年2月の政変以降、混乱が続いています。最大都市ヤンゴンで当会が運営する障がい者の職業訓練校は昨年来、新型コロナウイルス感染拡大の影響で休校を余儀なくされていましたが、この非常事態によって再開がいつそう困難になりました。また、2013年にタイからの帰還民・障がい者支援を開始した南東部のカレン州でも、治安の悪化で活動が制限されています。

2002年に首都カブールに現地事務所を構え、地雷対策や障がい児教育に取り組んできたアフガニスタンでは、2021年8月の政権崩壊で治安が急激に悪化しています。同国では現在、通常の支援活動ができないだけでなく、外国政府・機関で働いていたアフガニスタン人が次々と海外に退避し、AARの現地職員も不安を募らせています。

両国とも支援を届ける側・受ける側の双方が、いつどのような形で暴力に巻き込まれ、被害に遭うかわからない状況にあります。助けを必要としている人々に支援を届けたい——でも、そのために現地職員の生命を危険にさらすことはできないし、NGOが接触したことで受益者が不利益を被ることも絶対にあってはなりません。私たちは今、そうした葛藤の中にいます。

東日本大震災が発生した2011年3月当時、私はヤンゴン

に駐在していました。テレビが連日伝える日本の惨状に打ちのめされていた私を勇気づけてくれたのが、ミャンマーの人々が日本の被災者を支援するために開催したイベントでした。「日本は今まで私たちをたくさん支援してくれた。今度は私たちが支援する番だ」。こんなメッセージが、ニュースでもインターネットでも流れていました。この時、日本を応援してくれた世界中の国々のリストには、ミャンマーもアフガニスタンも名を連ねています。

政変による混乱が続く中、AARには軍事行動を止めたり、難民受け入れのために国境を開けさせたりするだけの力はないかもしれません。しかし、現地の人々とつながる私たちNGOだからこそ、できることがあると私は信じています。

両国には日本人駐在員と長年一緒に活動してきた現地職員、AARとの信頼関係を積み重ねてきた現地協力団体の仲間がいます。「難しいからできない」ではなく、困難な状況だからこそ「どうしたら安全を確保して支援を届けることができるか」を考えなければなりません。

私たちは東京と現地を結んで日々、知恵を絞りながら、その方策を模索しています。皆さまから寄せられた温かいお気持ちは、必ず現地の人々にお届けします。AARの人道支援活動へのご理解・ご協力を重ねてお願い申し上げます。



アフガニスタン国内で
避難民が暮らすテント群

アフガニスタン人職員の退避支援を日本政府に要請

アフガニスタン情勢に関連して、衆院議員会館（東京・永田町）で9月9日、「人権外交を超党派で考える議員連盟」の会合が開かれ、日本大使館や国際協力機構（JICA）、NGO職員など現地協力者の救出について協議しました。北岡伸一JICA理事長や大学関係者に加え、NGOを代表してAAR事務局長の古川千晶が出席し、日本の組織に所属する現地職員や家族の国外退避への支援を訴えました。また、AARなどNGO4団体をはじめ、大学関係者や企業など賛同団体／賛同者674人（9月9日時点）は同日、「退避を求めるアフガニスタン人受け入れに関する要請」を日本政府に提出しました。要請では、①日本に関係するアフガニスタン人（家族を含む）の受け入れと支援、②自由な出国の確保のための国際社会と連携した政治的努力、③日本での在留資格認定および査証（ビザ）発給手続きの簡素化・迅速化、④家族・親族の帯同への人道的対応、⑤退避者への在留資格付与、⑥民間による受け入れ体制づくりへの公的支援を求めました。

AAR News

2021 Autumn NO.476

次号は2022年1月上旬にお届け予定です。

特定非営利活動法人 難民を助ける会

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル7F

Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450

www.aarjapan.gr.jp



AAR Japan